

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300072		
法人名	有限会社アダモ		
事業所名	グループホーム風		
所在地	静岡県富士市神戸738-6		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyouyoCd=2292300072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間を通して季節を感じる事の出来る行事を開催し、楽しみある生活が送れるよう支援しております。医療面では協力医療機関と連携を図り、迅速な対応を心掛けております。介護スタッフは日中で最大4名で対応し、丁寧に寄り添う介護に努めております。面会及び外出希望についてですが、感染症の流行状況をみながら可能な限り対応し、定期的にご家族と有意義な時間が作れるよう支援をさせていただきます。当ホームは富士市東部の自然豊かな環境下にあり、四季を感じながらゆったりと過ごすことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議では、町内会長、民生委員、生涯学習部長、地域包括支援センターと、地域情報が豊富であろうメンバーを擁しており、参集による開催が復活して喜ばしい限りです。議事録も大変見やすく丁寧に、昨年5月には更に情報が詳細になっていて、工夫と前進への意欲が汲み取れます。また「今後の課題と検討事項」が明示されていることは、出席者から助言を得やすく秀逸な計らいです。これらは一時書面会議だった効用かと推量されるものの、今回のように書式が向上する事業所はないため、評価に値します。本年1月の開催では地域の寺院からの出席も叶い、益々の発展と供与が期待されます

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念である「相互尊敬・相互信頼」に基づき、入居者、ご家族、スタッフ、会社役員が信頼関係をそれぞれが築けるよう積極的にコミュニケーションを取り、風通しの良い環境維持に努めている。	「風」との名称通りに柔軟に物事を解決する取組が、理念の「相互尊敬」「相互信頼」に実っています。新人が入職したときには説明していますが、小さい規模なことあつて、自然に浸透しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナによる面会制限を緩和し、親族との交流が図れるようにしている。 町内活動に可能な範囲で参加し、地域住民との信頼関係構築に努めている。	5類移行となったとはいえ、感染症の心配は撤廃できず、地域行事への参加は控えています。地域の路地売り野菜を定期的に購入するなど、関わりが途絶えないようにとの工夫があります	障害施設からの交流の誘いはあるものの踏み切れない状況があります。 DVDで自己紹介したり、絵手紙(手形や噴霧など)の交換等、できるところから始めることを期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにより自粛しているが、様子を見ながら再開していきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において町内会長、民生委員、家族代表者より都度アドバイスを頂き、事業運営に活かしている。	町内会長、民生委員、生涯学習部長、地域包括支援センターと地域情報が豊富であろうメンバーを擁しているものの、書面開催を経て数人の縮小開催に至り、コロナ禍前の状況に復活しています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点、困難事例については都度担当部署へ相談し、指示を仰いでいる。	市役所からのメールは都度確認をおこない、情報共有に努めています。また本年度は運営指導がありました。指摘事項はないものの、助言を真摯に受け止めています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に現場の状況を管理者及び主任が確認し、会議等において周知及び禁止行為の内容を確認している。	「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」を3ヶ月毎に定期開催しており、法令を遵守しています。議事録には、現場に沿った注意点や課題を確認している内容とともに解決に向けた協議があり、適切に取り組んでいます	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に現場の状況を管理者及び主任が確認し、会議等において周知及び禁止行為の内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には地域包括支援センターや家庭三番所に相談し活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学及び十分な説明をした上で納得していただき、その後契約手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	LINE等を活用し、都度様子の報告及び要望等の確認をしている。写真を送るなど日々の様子が分かるような報告を心掛けている。	面会は1週間に1回、2名で15分までといった条件を設け、実現させています。外出や外食も5類以降を受けて解禁となり、娘や孫と1日ゆったり過ごした利用者もいます	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会や管理者及び会社役員による面談時に意見交換をし職場環境の維持改善に努めている。	1ユニットの小さな事業所だけあって、上下の分けへだてなく風通しがよく、また介護福祉士の資格取得が支援されるなどの福利厚生も整い、そのため定着率を高く保っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ノー残業、有給取得によりプライベートの時間を確保できるようシフト調整をしている。資格取得による手当の増額によるキャリアアップ支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座及びeラーニングを利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、法人間の情報交換等は行っていますが管理者や職員が同業者と交流する機会を作る事が出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、不安を傾聴するよう努めている。新しい場所での生活に戸惑いがある事を理解した上で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、できるだけ家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心していただける関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、事前に得た情報を基に必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを失わないよう、自宅環境に限りなく近い形での支援を意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度状況報告をし、必要あれば施設から来所をお願いし関係性が途切れないように気を付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症やインフルエンザ予防のため状況により面会禁止や、時間制限などを決め面会の機会を作り対応している。	介護計画書には「兄弟・家族・友人と会う」とある人もいて、馴染みの関係継続を位置付けていることを確認しました。また家族との連絡向上を図るため、ラインワークスの運用準備が進んでいます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独を感じず楽しみある生活が送れるよう毎日全入所者が集まる団欒の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援が終わっても何かあればいつでも相談できるような体制は整えてあるが、特にそういった事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いはどうだったのか。今の意向はわからなくても想像して支援するよう努めている。	アセスメントは契約時、介護計画書の更新時、状態変化時において、聞き取り及び更新を図っています。本人の要望から、編みものや生活(家事)リハビリなどへの支援が日々おこなわれています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にモニタリングを行い、配慮できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方については試行錯誤しながらその方に合ったスタイルを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と管理者、ケアマネジャー、ご家族と連携を取り現場で活かせるように努めている。	介護計画書1表の担当者欄には家族をはじめ職員以外の人に関わっていることが確認でき、地域密着型事業所として使命に準じた態勢であることが伝わります	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有タブレットに残したり、申し送り、ホワイトボードなどを使い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で個別対応に努め、一時帰宅や外食、冠婚葬祭等へ参加支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年同様、感染症の影響で自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる訪問医療が月2回の往診となっており、24時間体制の連絡及び指示、往診が可能な体制になっている。	日報には「主治医の往診など」を設け、薬剤の処方の有無欄もあって経過確認を確かなものとしています。また協力医療機関は、歯科や訪問看護事業所も含め4箇所あり、選択してもらっています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる訪問看護ステーションが週1回の訪問となっており、24時間体制の連絡及び指示、緊急訪問が可能な体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報共有、退院がスムーズにいくように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で最期を迎える方(希望される方)が増えてきており、入所時から終末期の指針の契約を取り交わし、ご家族と話し合う機会を設けています。	契約時に「利用者の重度化した場合における対応に係わる指針」に基づき家族に説明をおこない、合意できています。「此处で最期まで」という希望者が大半で、昨年春には91歳の利用者を見送っています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は事業所マニュアルがあり、主治医に連絡し指示を仰ぎ、必要あれば救急対応もしくは訪問看護師と連携した対応を行いません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施の防災訓練を行い、運営推進会議を利用した地域との協力体制を作っています。	年2回の防災訓練では通報訓練、備蓄確認に取り組んでいます。非難の時間を計測する際には利用者も活躍しており、防災業者が水消火器など必要なものを持ち込んでくださり、実践的です	連合会長 自主防災会長と有事に向けた相談並びに約束事もあり、連携が進んでいることから、今後は書面による取り決めなど、より堅固な体制に進むことを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や「接遇マナー」研修で接し方の理解をしています。OJTの中で先輩職員が指導を行なっています。	「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」の議事録には「私語を慎み、尊厳を念を忘れず、丁寧な対応を」と記載があり、また「環境整備により心穏やかに」との視点からも利用者ファーストが視えます	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が決定できるように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活は本人の希望に合わせている。ただしレクリエーションや運動などは個別内容に対応するには職員数から困難である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じての衣替えなどのご協力をご家族にお願いしている。定期的に訪問理容にてカットや毛染めを行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎がメインとなるが、手作りの食材も加え飽きのこない食事提供を心掛けている。イベント時にはお寿司や揚げ物、ケーキ等を提供する。片付けが可能な方には一緒に行う。	和洋中バランスがよいパウチを湯せんした献立を主にしており、その時々で職員が手作りしたものが加えられています。また利用者も食器拭きを手伝ってくださいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット端末を利用して個人記録を記入している。施設内のみならず本社においても摂取回数や量など内容が確認できるシステムとなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	タブレット端末を利用して個人記録を記入している。施設内のみならず本社においても摂取回数や量など内容が確認できるシステムとなっています。尚、希望者のみ訪問歯科診療を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間による排泄の声かけをしている。個々の排泄のサインを職員が見逃さないように注意している。カンファレンス等を通じて情報を共有しています。	定期で声をかけ、また個別のサインを掴んでいることから失禁を抑えています。「できるだけトイレで」を継続するためにもPTイレを安易に導入せず、リハビリを意識した手引き歩行を励行しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、摂取量を個人記録に記入している。乳製品や根菜類などを食材に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週2回利用者の状況に応じて入浴して頂いている。	入浴は週2回としています。入浴を通じて傷などないか確認しており、発見した場合はカメラなどで記録を残して、速やかな対処につなげています。また庭の果木に実った柚子を浮かべる日もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長事の時間は決まっているがご本人の状況に合わせて食事の時間をずらしたりしている。眠そうな時は、お部屋で休んでいただく。夕食後はその方のペースに合わせて各居室やリビングで自由に過ごして頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅管理指導の下、間違いのないように投薬をしている。薬情報のファイルを職員の見やすい所に置き、すぐ調べられるようにしている。変化があった場合、申し送りノートで情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のお好きな事をやっていただくようにしている。掃除の手伝いも個人の能力や体調を考えそれに合った事をやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときは職員と散歩に出たり、車で市内の公園に出掛けたりします。	日課としていませんが東名の側道をグルッと廻る散歩コースは定番で、天候がよいといった条件が整えば戸外に出ています。感染症の状況をみてのことになりますが「温かくなったら港の見える公園へ足を延ばしたい」との考えもあります	年間計画にに外出企画を入れて、実践を確かなものとしていくことを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症のため、お金の自己管理は難しいので、会社で立て替え買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、いつでもかけれる。ご家族様の手紙も希望があればご家族につないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境下を意識しており、飾りつけ等は必要以上にしないようにしている。	瀟洒な日本庭園は眺めているだけで和む共用空間に十分値しますが、昨年7月には此処で恒例のBBQを愉しんでいます。またリビングには除菌消毒機材を置き、引き続き衛生対策に努めています	「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」の議事録には車いすの使用についての注意点が綴られています。今後は消毒についても何某かのシートにチェックがあると、なお良いと思います
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間は自由に使えるのでほとんどの方はそこで過ごしている。一人になりたい時や眠い時などは居室で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を居室に設置したり、写真や絵を飾っている。	昨年12月には居室にも加湿式空気清浄機を設置しています。コロナ禍でなかなか十分には会えないことから、家族が「忘れないでほしい」として、家族写真が増えている部屋もあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置し、安全に1人で歩行できるようにしている。入所者によってはセンサーマットもしくは呼出しコールを設置している。		